

〔一〕 次の1～4の漢字の総画数を算用数字で答えなさい。(八点)

1 選 2 誤 3 医 4 誕

〔二〕 次の1～4の漢字の部首名をひらがなで答えなさい。(八点)

1 朝 2 弟 3 百 4 久

〔三〕 次の1～5の——線部を、送りがなも含めて漢字で答えなさい。(十点)

1 いちじるしい発展をとげる。 2 もつばらのウワサだ。 3 用件をつけたまわります。
4 態度をあらためる。 5 みじかい距離きょりを走る。

〔四〕 次の1～5の()に、からだの部分を示す漢字を一字入れて慣用句を作り、その意味をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。(十点)

1 () () を巻く 2 () () をわる 3 () () がたつ
4 () () が早い 5 () () がすく

ア	すつきりする・心配事がなくなる	イ	世間体を保つ・面目を保つ	ウ	情報に精通している
エ	とても驚く・感心する	オ	本心をうちあける		

〔五〕 次の1～5の熟語と反対の意味をもつ言葉を、二字の熟語で答えなさい。(十點)

- 1 自然
- 2 西洋
- 3 間接
- 4 減少
- 5 敗北

〔六〕 次の1～5の□には矢印通りに読むと二字熟語ができる漢字一字が入ります。□に当てはまる漢字をそれぞれ答えなさい。(十點)

〔例〕

留 ↓ □ → 備
子 → □ ↓ 衛

〔答〕

守

1

愛 ↓ □ → 意
格 → □ ↓ 機

2

最 ↓ □ → 性
快 → □ ↓ 応

3

延 ↓ □ → 身
面 → □ ↓ 針

4

極 ↓ □ → 器
苦 → □ ↓ 園

5

意 ↓ □ → 注
英 → □ ↓ 語

〔七〕 次の1～5の各グループには——線部の語の使い方が他と違ちがうものがあります。それを記号で答えなさい。

(十点)

1

ア 私のところにある本。
 イ ここには夢も希望もある。
 ウ 医者である父と母。
 エ 犬のそばにあるおもちゃ。

2

ア 雨が降ったから野球ができない。
 イ テスト範囲を始めから説明する。
 ウ ここから見える景色は最高だ。
 エ お客様が帰ってから夕食にします。

3

ア 明日は雨が降るそうだ。
 イ 母のきげんがよさそうだ。
 ウ 今日は勝負に勝てそうだ。
 エ 雪が二階まで届きそうだ。

4

ア ハサミで髪を切る。
 イ 徒歩で学校へ行く。
 ウ 病気で薬が必要になる。
 エ 選挙で生徒会長を選ぶ。

5

ア 母の体が案じられる。
 イ 故郷の事が思い出される。
 ウ 水の冷たさで冬が感じられる。
 エ へビににらまれるカエル。

「八」 次の文中の1～7の()に入るものとして最もふさわしい言葉をとから選び、記号で答えなさい。(十四点)

もうこれ以上、一步も歩けない。途方とほうに(1)立ちつくすと、同じく途方に(1)手の中で、絹糸に変形した足がひとりでに動きはじめていた。(2)とはい出し、それから先は全くおれの手を借りずに、自分でほぐれてへビのように身に(3)はじめた。左足が全部ほぐれてしまうと、糸は自然に右足に移った。糸はやがておれの全身を袋みくろのように(4)が、それでもほぐれるのをやめず、胴どうから胸へ、胸から肩へと次々にほどけ、ほどけては袋を内側から固めた。そして、ついにおれは(5)した。後に、大きな空っぽの繭まゆが残った。ああ、これでやっと(6)のだ。夕日が赤々と繭を染めていた。これだけは確実に誰だれからも妨さまたげられないおれの家だ。だが、家ができて、今度は帰ってゆく(7)がない。

(安部公房『赤い繭』による)

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------------------------|
| 1 | ア | くれて | イ | まよって | ウ | 遊んで |
| 2 | ア | どろどろ | イ | ぬるぬる | ウ | するする |
| 3 | ア | きばをむき | イ | まきつき | ウ | 移り |
| 4 | ア | 巻き込んだ | イ | 包み込んだ | ウ | 放り込んだ |
| 5 | ア | 進化 | イ | 退化 | ウ | 消滅 <small>しょうめつ</small> |
| 6 | ア | 休める | イ | 遊べる | ウ | 考える |
| 7 | ア | おれ | イ | おまえ | ウ | もの |

「九」 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(七十点)

初夏のある休日、①わたしは薬師寺に足を運んだ。薬師寺には、何度も来たことがある。青空にそびえる東塔を下からながめて、あしたことが何度かある。人はなぜこのような建造物をつくる気になるのだろう。この塔は風雪に耐え、ここに来たいくつの人生を見送ってきたのだろう。いつまでここに建ちつづけて、何をA見ることになるのか。いろいろな思いがa去来する。しかし、そつした思いが去ったあととは、ただぼかんと口をあけて塔の美しさに見とれている。そういうことをB繰り返してきた。b参拝の善男善女は、さかんに塔を背景にして写真を撮っているが、塔の美しさはなかなか写真などに収まるものではないだろう。塔の前に立って写真など撮れば、かえって人の世のはかなさばかりが写ってしまうのではないか。

その日のわたしには、首をめぐらして塔をながめる以外にも目的があった。平山郁夫画伯が二四年もの年月をcツイヤして描いたという「大唐西域壁画」を一目見ようと思つたのである。絵のためにつくられた建物の中は、薄暗かった。絵を守るための光度が、落ちついて絵を見るにはちょうどよい明るさをつくり出していた。須弥山の三枚の絵を真ん中にして、三蔵法師の歩いたであろう「求道の道」がD表現されている。中国・長安の大雁塔からインド・ナールンダの月まで、大きな絵にぐるりとかこまれて絵を見た。大変な行程であることがうかがえた。絵を見ているだけで②ひしひしと伝わってくるものがある。三蔵の時代なら、人生も生命も自分のすべてを計算の外にしなければできない旅ではなかつたらうと思つ。志高く、命がけで衆生を救うためにインドで仏法を学び、膨大な経典をもちかえつた三蔵。長安の、すでに仏法に関しては最大級の学者であつた三蔵を、そのような行動に駆り立てたものはいったい何だつたのだろう。

そんなことを考えて静かに絵を見ていた。三蔵の人生に対する畏敬。そつした心情が、たしかにわたしにもあつたと思つ。しかし、しばらくして③わたしの胸に宿つた言葉は、自分でも思ひもよらないものであつた。「人間はなんとけつたいな生き物なのだろう。苦しむことを求めて生きるのが人間なのだろうか。苦しむことを好んでする生き物は、人間以外にいるのだろうか」。長安で最大級の学者であつた三蔵は、このような旅に出かけずとも、人々の尊敬を集めながら、安楽に一生を終えることが可能であつたに違いない。それは、この薬師寺のほど近くにあり、唐招提寺に一ゆかりの深い④鑑真にもいえることであつた。安楽な生活を第一に考えるなら、苦難の道を選んで日本に渡る理由がどこにあるのだろうか。仏法者だけではない。この絵を二四年

かけて描き、二〇世紀最後の大晦日に間に合わせたという平山画伯も。三蔵に捧げるといふ気持ちで描いたという大壁画に一銭ももらっていないという。人間は、自分のために、あるいは誰かのために苦しむことを選び、それを喜ぶ生き物なのかもしれない。苦しみは喜びである、妙な考えが宿った。

やがては消えるだろうと思っていたこの奇妙な想念^{注3}は、不思議な強さでわたしの胸に居座りつづけた。そして、さまざまに日常の見直しをうながした。夏の苦しいマラソンも、この想念に信任を与えることになった。わたしは、数年前から歩くようなスピードでとぼとぼ走ることを趣味にしている。その日のコースは、ニキロ近く上りがつづいた。

うをあげぬようにして、頂上を見ては足元にdシセンを落とし、上った。そのときである、薬師寺ですみついた想念が声をあげた。「お前だって苦しいことを喜んでやっているではないか、やっぱりけつたいな生き物の一員じゃないか。そうなのだ。疲れた、大変だったと言いなからそれを喜んでやっているのは自分だ。⑤いやなら家で寝ていれば良い。それが一番安楽なのだ。けれども、それでは何のおもしろみもない一日を過ごすことになる。同様に、何の苦しみもない人生は、生きたという実感に乏しい、案外つまらない人生かもしれない。生きているという実感は、苦しみによってもたらされる。

大きな回り道をしてきた。表題にした「人はなぜ学ぶのか」について考えたい。「学び」を、この「自分のために苦しむことを選び、苦しむことを喜ぶ」という脈絡^{注4}のなかでとらえることはできないか。学ぶこと、わかることは喜びだという。しかし、その喜びを裏打ちしているのは苦しさではないかと思う。苦しいことがたくさんあるからおもしろい。「乗り越えるべき坂がたくさんあるからやめてしまおう」……人の心の動きは玄妙^{注5}で、なかなかそうは動かない。坂を乗り越えることをこの上ない喜びとすることの方が多い。本当はそんなことをしなくても、ただ生きていくのには困らない。それでも人間がeヨウイに学ぶことをやめようとするのは、学ぶことの苦しみ、喜びが、人間が生きていくことの本質に根ざしたものであるからにちがいない。

(村上慎一『なぜ国語を学ぶのか』による)

- | | | | | |
|----|---|----|---|------------------|
| 語注 | 1 | 衆生 | … | 生命あるもの全て |
| | 3 | 想念 | … | 心に浮かぶ考え |
| | 5 | 玄妙 | … | 技術やかたが深くすぐれていること |
| | 2 | 畏敬 | … | 偉大な存在をおそれ、うやまつこと |
| | 4 | 脈絡 | … | 物事の一貫したつながり、すじみち |

問1 〰〰線部 a s e について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して、それぞれ答えなさい。

問2 〰〰線部 一・ニについて、言葉の意味をそれぞれ簡潔に答えなさい。

問3 〰〰線部①「わたしは薬師寺に足を運んだ」とあるが、その目的を解答らんにつく形で十字以内にまとめて二つ答えなさい。

問4 あに入れる言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どきどきと イ うつとりと ウ しんみりと エ あたふたと

問5 ……線部 A「見る」・B「繰り返し」・C「撮れ」・D「表現さ」の各動作について、その主語を次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア わたし（筆者） イ 参拝の善男善女 ウ 大唐西域壁画 エ 東塔 オ 平山郁夫画伯

問6 〰〰線部②「ひしひしと伝わってくる」とあるが、具体的に何が伝わってくるのか、答えなさい。

問7 〰〰線部③「わたしの胸に宿った言葉は、自分でも思いもよらないものであった」と筆者が述べる理由を答えなさい。

問8 〰〰線部④「鑑真」という人物を筆者が本文中に引用した理由を考えて答えなさい。

問9 い・うに入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア B…音・C…声 イ B…音・C…頭 ウ B…声・C…音 エ B…頭・C…音

問10

——線部⑤「いやなら家で寝ていれば良い」とあるが、筆者がこつしない理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者が何事に対しても負けず嫌いな人間であり、苦しければ苦しいほど生きている実感があると考えているから。
- イ 筆者が単純な安楽を極端に嫌う人間であり、苦しみの中にこそ楽しみやおもしろみを感じると考えているから。
- ウ 筆者が単純な安楽ではおもしろみに欠けるとし、苦しみの中にこそ生きている実感があると考えているから。
- エ 筆者が単純な快樂では楽しみに欠けるとし、苦しみの中にだけ生きている実感があると考えているから。

(問題は以上で終了です。)

平成28年度 前期入学試験 解答用紙 「国語」 京都共栄学園中学校

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

一	1		2		3		4	
---	---	--	---	--	---	--	---	--

二	1		2		3		4	
---	---	--	---	--	---	--	---	--

三	1	2			3	
	4	5				

四	1	意味			意味		3		意味
	4	意味			意味				

五	1	2				3	
	4	5					

六	1				3		4		5	
---	---	--	--	--	---	--	---	--	---	--

七	1					3		4		5	
---	---	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--

八	1	2				3		4		5	
	6	7									

受験番号	氏名
------	----

問1		a	b	c	
問2		i	ii		
問3		一 二 目	ため		
問4		二 三 目	ため		
問5	A	B	C	D	
問6					
問7					
問8					
問9					
問10					

受験番号	氏名	採点
------	----	----

平成28年度 入学試験解答用紙 「国語」

京都共栄学園中学校

1	15
2	2
3	14
4	7
5	4
6	15

1	つきん	2	ゆみゆみ	3	しろ	4	はらいぼう
---	-----	---	------	---	----	---	-------

1	著しい	2	専ら	3	承り
4	改める	5	短い		

1	舌	意味	工	2	腹	意味	才	3	顔	意味	イ
4	耳	意味	ウ	5	胸	意味	ア				

1	人工	2	東洋	3	直接
4	増加	5	勝利		

1	好	2	適	3	長	4	楽	5	訳
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

1	ウ	2	ア	3	ア	4	ウ	5	工
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

1	ア	2	ウ	3	イ	4	イ	5	ウ
6	ア	7	ア						

配点

四のみ各一点
他問は各二点

